

生活

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

気付きの質を高める学習活動の充実に向けて

(1) 生活科における学習過程

生活科においては、一連の学習活動の「まとまり」として、単元の中で、例えば、①思いや願いをもつ、②活動や体験をする、③感じる・考える、④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）学習過程を基本にして、体験活動と表現活動とが繰り返されることで児童の学びの質を高めていくことが重要である。

(2) 気付きの質を高める学習指導の進め方

生活科における「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、学習指導において、単に児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけでなく、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を重視する等、気付きの質を高めることを意識することが大切である。

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせつないで	認め励ます
<p>■試行錯誤や繰り返す活動を設定する</p> <p>条件を変えて試したり、再試行したり繰り返したり確かめたりする活動を位置付ける。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なぜ」「どうして」等、児童の知的好奇心を喚起し、主体的に「〇〇したい」と問題解決に取り組める課題を設定。 ・学習対象（人・もの・こと）や学習材に継続して関わる機会を確保。 	<p>■伝え合い交流する場を工夫する</p> <p>一人一人の気付きを大切にし、自他の気付きのよさや違いをもとに交流する。</p> <p>■振り返り表現する機会を設ける</p> <p>言葉による表現活動を通して、自らの活動や対象を見つめ直し、気付きの質を高める。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識、目的意識を大切に学習活動を設定。 ・児童の気付きを認め、共通の視点に気付かせたり、ストーリーをつないだりする教師の働きかけや言葉かけ。 	<p>■児童の多様性を生かし、学びをより豊かにする</p> <p>児童自らがよさを発揮し、互いのよさや気付きを尊重し、認め合える雰囲気作りをしていく。</p> <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いや願いに寄り添い、共感し、共に動き、小さな変化を見取る。 ・様々な立場からの評価資料を収集し、児童の姿を多面的に評価。

低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりを実現していくことが大切です。



ICTの活用について

【参考】文部科学省 HP「StuDX Style」小学校・生活科より

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00015.html)



○学習対象への興味・関心の喚起や、記録した情報をもとにした伝え合いの充実

- ・個々の思いや願いに応じて、学習対象を視覚的で分かりやすく提示することが可能
- ・様々な場所を調べたり利用したりする過程で、そこで出会う「人・もの・こと」について多様な情報を記録し、その後の伝え合いに生かすことが可能

【事例①】表現方法の工夫（第1学年：「たのしい あき いっぱい」）

自分が作ったお気に入りのおもちゃを写真に記録し、お気に入りの理由やペア活動での気付きを写真に書き込み、自分のおもちゃの良さやポイントを紹介する。⇒自分の思いをより分かりやすく伝える方法を考えたり、表現の工夫を見いだしたりすることができる。

○活動後に自らの取組を客観的に振り返り、活動のよさに気付く

- ・活動や体験に没頭してきた児童が、「振り返り」の活動において自分たちの行為を客観的に振り返ることが可能

【事例②】学びの振り返り（第2学年：「おいしく育てね わたしのやさい」）

自らの五感を働かせて気付いたことをもとに、記録した野菜の写真に手書き機能で野菜の様子や気付いたこと、感想等を書き込み、学びの記録を蓄積する。⇒記録した写真を時系列で並べて振り返ることで、野菜の成長や変化の様子に気付くことができる。